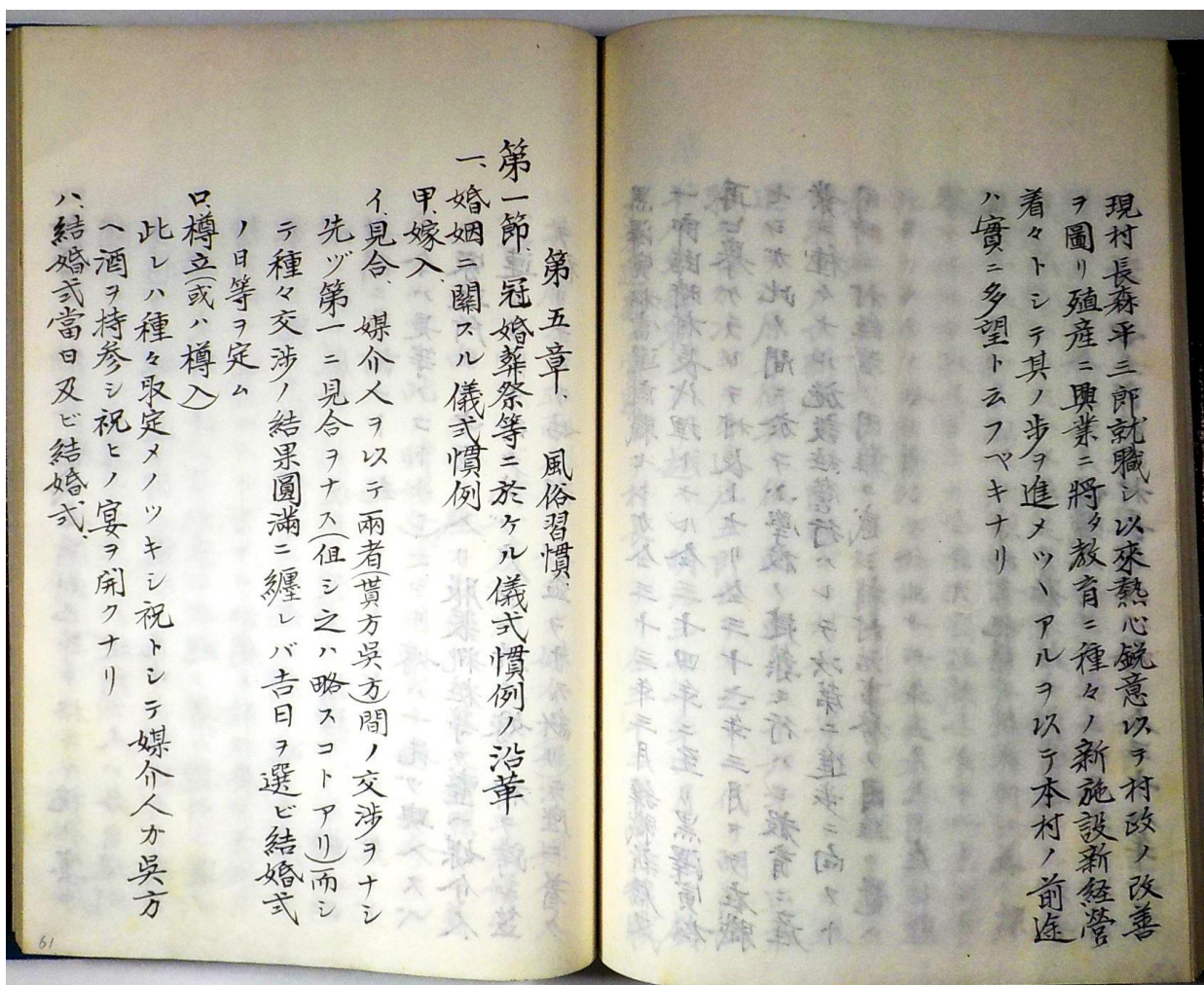


① 郷土誌 (新屋尋常高等小学校)

明治 43 年 (1910)

明治 42 年 (1909 年) の県知事訓令を受け、北甘楽郡新屋村 (現甘楽郡甘楽町天引ほか) が作成した村誌の一部です。「冠婚葬祭等ニ於ケル儀式慣例ノ沿革」の部分には、当時新屋村で行われていた伝統的な婚礼と葬礼の習俗が詳細に記されています。婚礼、葬礼ともに非常に多くの日数、人員と物資を必要としていた様子がわかります。また、葬礼の記述の最後の部分には、既に伝統的儀式が軽視されてきていることや、勤儉組合が組織されたことにより、華美な饗応が減少していることなどが記されています。

群馬県行政文書 A0384A0G No.792



會當日ニ至レバ親戚近隣知己等ヲ招キテ祝ノ宴ヲ
開クナリサテ日暮方ニ至レバ近所ノ人ハ各自提灯
ヲ携ヘテ嫁ノ迎ニ行ク道程ハ凡中央部迄トス嫁カ
媒介人夫婦ニ伴ハレテ來レバ迎ノ者ハ提灯ヲ道ノ
傍ニ併バ迎フルナリ(古クハ此處ニ於テ吳レ方ヨリ
來リシ送リノ者ト貰方ヨリ出デタル迎ヒノ者トノ
間ニ顔ル嚴格ナル受取り渡シノ挨拶アリテ時ニ兩
者間ニ爭論ナドノ起リシコトモ有リトカヤ然レド
モ今ハ是等ノコトナシ)之ヨリ嫁ハ一先ツ輿入スベ
キ家近所ナル中宿ニ入り服装粧粧等ヲ整ヘ媒介人
ニ連レラレテ行ク先ヅ戸口ニ於テ嫁ハ杵ヲ跨ギ笠
ヲ被リナガラ姑ト親子ノ盃ヲナス終リテ座ニ着ク

其ノ席次ハ正面尤ヨリ嫁次ガ媒介人(婦次ガ媒介人
(夫ト云フ順序次ガ侍女房近所ノ人ニシテ三夫婦出
ル)正面ヘ向テ左側ニ座ス右側ニハ其夫對照シテ着
座スルナリ此ノ時媒介人ハ一同ニ向テ嫁ヲ紹介スル
ナリ
床ノ間ニハ島臺銚子杯等ヲ飾リテ儀式ノ準備已ニ
整フ新郎ハ盛装シ來リテ正面ニ對シテ着席ス此ノ
時愛ラシク装ヒタル男兒ト女兒ト雄蝶雌蝶ノ銚子
ヲ執ツテ酌ヲナシ高砂ヤ四海波ノ謡ノ裏ニ三三九
度ノ杯ハ行ハレ舅姑モ出デ、盃ヲ交換シ其ノ他ノ
家族モ出デ、近ヅキヲナシ式全ク終ル
四鐵槩付 結婚式ノ翌日ヲ鐵槩付ト云フテ新婦ハ鐵

槩ヲ以テ齒ヲ染ムルナリ然レテ當日ハ鐵槩付祝ヒ
(又サンヤノ祝ト稱シ赤飯ヲ造リ宴ヲ開ク近來ノ嫁
ハ實際ニ涅齒スル者ハ少ナケレドモ其ノ形式ハ必
ズ之レヲ行フ)
五村廻リ 結婚式ノ翌日若シクハ翌々日花嫁ハ姑ニ
連レラレテ近隣知己等ノ家ヲ廻リテ一々挨拶ヲ爲
ス之レヲ村廻リト云フ
六里歸リ 村廻リノ翌日(結婚式ノ日ヨリ三日目ニス
ル者多ケレドモ又五日目七日目等ニ為ス者モアリ)
ハ里歸リトテ花婿花嫁ハ媒酌人ニ連レテ嫁ノ里
ヘ行クナリ然レテ婿ハ又妻家ノ近隣ヲ一々廻リテ
披露ヲ為スコト嫁ノ村廻リニ於ケルガ如シ

以上ハ貰方ニ於ケル儀式慣例ノ大略ナレドモ呉方ニ
於テハ一般ニ貰方ヨリモ贅應其ノ他儀式等モ簡單ナ
リ
呉方ニテハ其ノ當日ニ至レバ貰方ノ如ク近所親戚知
己等ヲ招キテ祝ヲナス嫁トナルマキ人ハ沐浴結髮粧
粧其ノ他ノ装束終レバ酒宴ノ席ニ出テ、來賓其他朋
友等ニ挨拶ヲナシ婚家ニ持参スベキ衣服調度ノ荷造
出來レバ媒酌人ニ伴ハレ朋輩其ノ他二三ノ人ニ送ラ
テ出發ス(一見トテ近親數名ガ婚家ヘノ初見卷ノ為メ
送り行ク者モアリルナリ)
乙婚入
異嫁入ノ如シ唯異ナル點ハ婿ガ媒介人ニ連レラレ

ヲ來ル時ハ嫁ハ我ガ家ヲ出テ他家ニテ服裝其ノ他
一切ノ準備ヲナシ恰モ他ヨリ嫁入りシタルモノ
如クシテ儀式ヲナスモノナリ

ニ葬儀ニ關スル儀式慣例

本村ノ葬儀ハ大概佛式ニシテ神葬式等ハ殆皆無ナレ
バ今當村ニ於ケル佛式葬儀ノ大略ヲ尤ニ記述スベシ
イ葬儀準備

死者アルトキハ隣家組合等集合シテ葬儀ニ関スル
一切ノ準備ヲナス先ヅ親戚知己等ニ出ス告ゲ人又
ハ戶籍上ノ手續及ビ寺院へノ通告ヨリ葬具ノ製作
其ノ他諸般ノ響應ニ関スル用意等ソレノ適任者ヲ
選ビテ各訃署定メレバ或ハ買物ノ為ノ市中ニ出テ

ハシ饅頭其ノ他ノ食品及ビ葬具等ノ注文ニ奔走スル
者アリ或ハ足支度嚴メシク激里外ノ親戚知己等ヲ
驅ケ廻ル告ゲ人モアレバ竹ヲ截リ板ヲ削リテ葬具
ヲ製作スル者モアリ近隣ヨリ食器其ノ他ノ家具等
ヲ運ビ集ムル者野菜ヲ洗フ者米ヲ搗クモノ寺院ニ
參向スル者アレバ墓地ニ穴ヲ穿ツモアリ斯クノ如
クシテ諸種ノ準備立ドコロニ整フ

以死者ノ處置

死者ハ之レヲ北枕トナシ枕直シト云フテ褥中ニ臥
サシメ魔除ト稱シテ刀ヲ其枕邊ニ立ツ枕頭ノ机上
ニハ燈明ヲ點ジ香ヲ燒キ枕飯及ビ枕團子ト名ツク
ル云米ヲ炊キタル飯ト云米ノ粉ニテ製ミタル團子

及ビ水等ヲ供フ而シテ通知ヲ發シ置キタル親戚等
ノ來會スルヲ待テ湯灌ヲ行フ此ノ湯灌ニ立會フ
トキハ男子ハ裸體トナリ女子モ亦湯文字一枚トナ
リ麻モテ裸體ニ南無阿彌陀佛々々ト稱ヘツ、死躰
ヲ洗滌スルナリ近親相集マリテ變リ果テタル亡軀
ヲ處理スルコト故一族ノ悲歎此ノ時ヨリ甚ダ數キ
ハナク慟哭ノ聲門外ニ及ブコトアリサテ湯灌終レ
ハ死者ニハ經帷子ヲ着セ草鞋ヲ穿カセ頭陀袋ヲ頸
ニ掛テ六道錢隱シ錢等ヲ持タシメテ柩ニ收メテ一
室ニ安置シ香華ヲ手向テ燈明ヲ點テ南向ス
ルナリ

ハ饗應

以上ニ陳バタル如ク一方ニ死者ノ處理ヲナシ居ル
間モ一方ニハ會葬人引キモ切ラズ吊詞ヲ述バル者
アリ香奠ヲ出スモノアリ接待掛ハ一々之レニ食膳
ヲ供スサテ食物ハ勿論一切精進料理ニシテ油揚ケ
饅頭等ヲ出スハ一般ノ慣例ノ如ク茶又ハ菓子ノ折
詰等ヲ引物トスル者モアリ

ニ儀式

寺院ニ於テハ豫テ通告サレタル時刻前ニ諸種ノ準
備ヲ整ヘ更ニ喪家ヨリノ迎ヲ待テテ住職ハ部下ヲ
率ヒテ喪家ニ出張シ喪家ノ身分及ビ檀徒トシテノ
階級等ニ依リテ會葬スル僧侶ノ數及僧侶ノ裝束等
ニ差異アリ聖柩前ニ於テ讀經ヲ行フ此ノ時近親及

心重ナル會葬者ハ皆正装男子ハ羽織袴女子ハ白無
垢シテ其ノ席ニ列スサテ讀經終レハ先僧鈔鉢ヲ鳴
ラシテ出棺ノ合圖ヲナス之レニ於テ一般會葬者庶
中ニ集合ス時ニ一人立チテ役付ヲ讀ム右會葬者ハ
其ノ役付ノ命カルガ如クニソレノ任務ニ就ク再
鈔鉢ノ合圖ト共ニ燈籠旗天蓋弓松明等ヲ前後ニシ
テ柩ハ高ク四人ニ昇カレ行列正シク寺院ニ向テ進
行スルナリ然レドモ若シ墓地カ寺院ノ附近ナラザ
ル時ハ寺院ニ至ラズシテ直チニ墓地ニ至ル此所ニ
於テ行列ハ靈柩ヲ擁シテ圓形ニ廻施スルコト三回
此ノ時葉籠ト稱スル籠ニ錢ヲ入レテ之ヲ振り散ラ
ス又袂錢ト稱シテ喪主又ハ死者ノ最近親カ袂ヨリ

ハ錢ヲ出シテ振り撒クコトアリ此ノ時其ノ錢ヲ拵
ハントシテ見物ノ群集カ非常ナル雜沓ヲナスコト
アリ然レドモ之レハ十分高齡ニ達シ所謂壽ヲ以テ
終リタル人ノ葬儀ニ於テノミ行フモノニテ未ダ年
若カ、リシ人ノ葬儀ナドニハ此等ノ事アルコトナ
シ次ニ導師ノ引導終リテ近親ヨリ順次焼香ヲ行ヒ
埋棺シテ歸宅ス喪家ニ於テハ位牌ヲ床ノ間ニ安置
シ十三佛ノ掛物ヲ掛ケ燈明華花ヲ供ヘテ回向ヲナ
ス引キ續キテ三日ノ振舞モ濟メバ其ノ夜若シクハ
翌日忌明け又ハ忌中拂ヒト稱シ墓參ヲナシ僧侶ニ
布施シテ讀經ヲ請ヒ隣家組合及ビ近親等ヲ集メテ
響應ヲナシ且ツ念佛ト唱シテ盛ニ鉦ヲ打ち鳴ラシ

テ念佛ヲ唱フ此ノ時念佛玉ト稱スル大ナル餅ヲ作
リ何人ヲ問ハズ來會スル者ニハ悉ク之レヲ施與ス
(近來ハ念佛玉ヲ晒スル者普通ナリ)
亦墓參及ビ法會

葬儀終リテ後七日ノ間ハ毎日墓ニ詣テ香華等ヲ手
向ケ其ノ後又七日目毎ニハ必ラズ墓参シ七七四十
九日ニ至レバ又親戚等ヲ招キ餅ヲ搗キテ供養ヲナ
シ寺院ニ布施シテ讀經セシメ卒塔婆ヲ建ツルヲ普
通トス然レドモ又單ニ塔婆ヲ建ツルノミニテ親戚
知己等ハハ配リ者ノミニ止ムル者モアリ
サテ其ノ後百日目ヲ百日稱シ小法會ヲ答ムヲ例
トシ次ハ一週忌三回忌七回忌十三回忌十七回忌ニ

十三回忌三十三回忌等ニハ大概寺院ニ布施シテ塔
婆ヲ供フ然レドモ亦大ニ晒シテ此等ノ供養ノ中僅
ニ一ニ一回ノミヲナス者モ少ナカラズ
以上ハ本村葬儀ノ最モ普通ナルモノ、概要ヲ記述シ
タルモノニシテ元ヨリ資産裕カニ身分アル者ニ於テ
ハ五人七人ノ僧侶ヲ會葬セシメ一般會葬者ニモ二ノ
膳三ノ膳ト鄭重ナル響應ヲ為シ且ツ高價ナル紀念物
ヲ配附スルガ如キ者モナキニハアラズ然レドモ又下
層社會ニ至リテハ單ニ寺僧ノ會葬ヲタニ請フコト能
ハズ書キ物ト稱スル法名ヲ書記シタル一紙片ヲ得テ
纒ニ葬儀ヲ濟ス者モ有リテ頭底之レヲ一概ニ言フコ
トヲ得ズ思フニ往時人民質朴ニシテ佛教尚ホ盛ナリ

シ時代ニ於テハ藝儀又ハ法會等モ頗ル嚴格ニ行ハレ
タルモノ、如クナリシモ維新以來歐米、文物輸入セ
ラレテ人々カ科學的ノ解款ヲ何事ニモ試ミントスル
ノ傾向ヲ有セシヨリ是等ノ儀式等ハ漸々輕視セラレ
之レニ加フルニ至ル戊申ノ歲以來勤倭組合ノ如キモ
ノ至ル所ニ組織セラレ佛事供養等ニモ成ルベク費用
ノ節約ヲ旨トシ華美ナル餐應等ヲ為ス者次第ニ減ス
ルニ至レリ

第二節 休日制度勞働上ノ習慣

一 休日制度

昔我が邦ニハ正月盆五節句等季節ノ祝日アリテ何レ
モ支那ノ古風ヲ傳ヘタルモノナルベク上ハ朝廷ヨリ

下萬民ニ至ルマデ莊嚴其式ヲ行ヒ徳川時代ニ及ビタ
リ明治六年五節句ヲ廢シ天長節紀元節等ヲ以テ大祭
日祝日ト定メラル、ニ及ビ今日ノ新世界ニテハ五節
句ハ單ニ維新以前ノ風俗トシテ見ルベク唯農休ハ農
家一般ニ行ハル尤ニ其ノ概略ヲ記ス
正月一日

徳川時代ニテハ諸大名ソレ々正装行列シテ登城シ將
軍ニ參賀ヲ述ベ非常ナル盛典ナリ現ニ此ノ日四方拜
アリテ宮中ニ於テ文武百官ノ參賀ヲ受ケサセ給ヒ庶
民モ亦年賀ヲ相互ニ述ブ女子ノ年賀ハ二十日男子ハ
七種マデニ為スベキモノトス
正月七日(若菜ノ節句)